

### 【災害を『他人事』にさせない】

震災伝承に携わる者として、伝えたいことや考えていることを伺いたい…面談の目的を伝えたときの第一声が「災害を『他人事』にさせない。」だった。シンプルで、だが震災伝承に携わるおそらくすべての者に共通する想いだ。

震災後、多くのボランティアと交流を持った釘子明氏は、阪神・淡路大震災や新潟県中越地震を経験したボランティアが口々に「私たちの震災の出来事が活かされていない。」と話すのを耳にしたという。東日本大震災津波も同じようになってほしくない、その想いが語り部活動につながっている。

現実はどうか。2011年以降日本各地で様々な災害が発生するたび、同じ言葉が繰り返されてはいないだろうか。「まさか私が、災害に遭うとは！」「想定外。」…。

「災害は誰の身にも起こりうる。」頭ではわかっている。それでも「自分だけは大丈夫。」と思う心の働きを取り除くことはできないと言われている。こうした心の働きは「正常化の偏見（正常性バイアス）」と呼ばれ、詳しくは伝承館の展示でも解説しているので、ぜひ一度ご覧いただきたい。この「正常化の偏見」に対して、現時点で取りうる手段は「知っていること。」災害時にこうした心の働きがあることを知っていれば、「たぶん大丈夫だろう。」と思う自分を「バイアスがかかっているかも。」と客観視することができる。

「災害は『他人事』じゃない。」、月並みだが、まずはそこから始めよう。やがて知識が行動につながり、「その日」を迎えたときに生きのびることができるようになるように。



【市内を回りながらの、語り部活動】